

## リハスタッフの業務効率化への取り組み ～より個別性の高いプランを提供するために～

あい介護老人保健施設 フロア科リハビリ係 園田 敦子

### 【はじめに】

あい老健では、開設以来、「リハレクケア」の視点から、個別リハビリテーション（以下個別リハ）のほか、多職種協働のもと、生活の中にリハ的要素を取り入れたプランを積極的に設定し『生活リハ』を実施してきた。平成 21 年度の介護保険の改正により、在宅復帰・心身機能改善を目指す入所後 3 ヶ月の集中的個別リハ実施が推奨され、基本サービスとしてもマンツーマンでの週 2 回のリハスタッフによるアプローチ実施が義務付けられた。加えて、個別性の高いリハビリテーション実施の必要性や需要が高まっている背景がある。

しかし業務内容が多岐に渡ること、突発的に発生する業務が多いことなどから、予定を立てることが難しく、個別リハや他職種との相談業務の時間確保も難しいという問題が生じていた。この問題点を解決する為、ユニット担当制・物品管理・スケジュール管理の 3 つの側面から業務効率化への取り組みを実施した。その結果と今後の課題について考える。

### 【問題点の分析と対応策】（実施期間：平成 23 年 7 月～11 月）

1. 1フロア担当では担当利用者が 3 ユニットにわたり、移動しながらの業務となり、非効率的である。→ユニット担当制（1 ユニットに 1 人のリハスタッフ配置）とした。
2. 物品数が多く、ご利用者様に適切な物品を提供するまでに時間がかかっている。  
→施設内リハ物品（車椅子・歩行用具・自立バー・クッションなど）にシリアルナンバーを見やすく表示し、PC 上での管理体制・他職種との連携体制を整えた。
3. 個別リハ実施時間が断続的になり、また予定していても実施できないことがある。  
→業務内容・所要時間を記録し分析を実施。その結果から、スケジュール管理を進めた。

### 【結果と考察】

問題点 1・2 について、対応策を実施した後の現場での変化を捉えるため、各ユニット・看護の主任・副主任対象に「リハとの連携／物品管理について」のアンケート実施し集計を行った。対応策実施以前の状況を 5 点と評価した場合、実施後のリハとの連携状況は 7.75 点と、改善が認められた。物品管理については、実施後の評価は 7 点であり、管理しやすくなったとの評価を得られた。また業務内容の分析・スケジュール管理の結果からは、実施前（9 月）は、個別リハ実施時間が業務全体の 31% だったのに対し、実施後（10 月）は 37% と増加している。相談業務は実施前は 10%、実施後は 10% と同程度の実施であった。

その結果、1～3 の対応策を実施する以前の 6 月の加算対象者のリハ実施率は 81%、個別リハ実施率は 44% であった。実施後の 10 月の加算対象者リハ実施率は 91%、個別リハ実施率は 72% と実績向上が見られた。

以上のことから、考察としては、今年度の取り組みを実施し、非効率的であった時間が削減され、個別リハの時間が増加でき、連携に必要な時間を確保できた。一方、今後さらに個別性の高いプランを展開するには、相応の人員配置が必要なこと、新人スタッフの教育体制の構築、さらに多職種連携を深める必要性などが明らかとなり、今後の課題と言える。